

変更前の機構/構造説明	変更後の機構/構造説明
<p>蒸気弁（手動式）の開閉は配管内部のスケール付着により開閉が非常に困難なのが現状である。定修時に開閉を行なうが作業労力が掛かっている。開閉に労力・時間を要するため頻りに開閉できずその為、益々スケール等が付着しやすい。</p>  <p>写真1 蒸気弁のスケール</p>	<p>新日南製ユニハンドラーを導入することで下記事象の大幅な改善が可能となる。</p> <p>①開閉時間の短縮化（労力の低減） ②①の結果から弁の開閉頻度が増し、スケール付着の低減が期待できる。</p> <p>また従来駆動本体・フレキシブルシャフト・アタッチメント等は別々に運搬していたが、写真3に示す装置運搬台車を新たに追加製作した。必要機材の同時運搬が可能となり、作業効率が向上した。</p>  <p>写真2 ユニハンドラー装着例</p>  <p>写真3 ユニハンドラー装置運搬台車</p>

(1) 装置・機器の概要説明

- ①可搬式エンジン駆動本体 UHA-3.5
- ②フレキシブルシャフト F-18A
- ③アタッチメント AM-60
- ④AMアダプター
- ⑤アタッチメント廻り止め金物（スタンド式ステーパイプ）
- ⑥装置運搬台車

(2) 変更前の問題点

発電所等に設置されている蒸気弁等の手動弁は、多くの場合開閉作業に多大な時間を要するため、開閉頻度が減少しスケールの成長が促進されてしまう。

(3) 変更後の利点